

「御挨拶」

防衛大臣 小泉 進次郎



明けておめでとうございます。

防衛大臣の小泉進次郎です。

陸修偕行社会員の皆様におかれましては、防衛省・自衛隊の活動に対し、日頃から力強い御支援と御協力を賜りまして、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。新年を迎えるに当たり、この場をお借りして、私の決意と抱負について、述べさせていただきます。

昨年10月、私が防衛大臣に着任した際の訓示においても述べたとおり、防衛大臣としての私の使命は、国民の命と平和な暮らしを守り抜くこと、我が国の領土・領海・領空を断固として守り抜くこと、さらに、それらの任務に当たる自衛隊員一人一人とその御家族を守り抜くことです。

これらの使命を果たすため、その職責の重みを感じながら、25万人の隊員とともに全力で職務に邁進してきましたが、先日、宮古島・石垣島・与那国島の3島を訪問した際にも、隊友会、防衛協会、自衛隊協力会、そして家族会といった地域の協力団体の方々や、現地の隊員とその御家族の方々

から、様々な御意見を拝聴する機会を頂き、こうした使命感は、日々強く、確かなものとなっております。

特に、自衛隊の活動に対する一部の過度な抗議活動や心ない行動により、隊員のみならず、隊員の御家族におかれても肩身の狭い思いをされている現状は、必ず変えていかなければなりません。国を守り、国民を守る、崇高な国防の使命を負う隊員とその御家族は、国の宝であり、誇りです。こうしたことが正しく伝わるよう、防衛省を挙げて、情報発信を強化します。

そして、特に次のような取組について、引き続き強い覚悟で取り組んでまいれる所存です。

まず、防衛力の変革についてです。

一層急速に厳しさを増す安全保障環境において、これまで以上に強い危機感と切迫感をもつて、防衛力の抜本的強化を主体的に、速やかに実現し、さらなる防衛力の「変革」につなげていく必要があります。

まずは現在の取組を加速すべく、現行の国家安全保障戦略に定める「対GDP比2%水準」について、令和7年度中に前倒して措置を講じることとしました。また、三文書の本年中の改定に向け、私の着任後早速、「防衛力変革推進本部」を立ち上げ、スピード感をもつて検討を進めています。

安全保障環境が急速に変化する中、防衛力変革のための取組について、遅すぎることはあっても、早すぎることはありません。国民の命と平和な暮らしを守り抜いていくために何が必要か、あらゆる選択肢を排除せずに検討していく考えです。

次に、同盟国・同志国等との連携につい

てです。

日米同盟は、我が国の安全保障政策の基軸です。大臣着任後、速やかにヘグセス戦争長官と会談を実施し、同盟の抑止力・対処力を一層強化していくことで一致しました。

11月にはマレーシアを訪問し、拡大ASEAN国防相会議(ADMMプラス)及び日ASEAN防衛担当大臣会合に出席するとともに、日米豪比四か国の防衛相会談に加え、米国や中国を含む各国の国防大臣等とも会談を実施しました。

地域の平和と安定の確保は一国のみではなしえません。同盟国・同志国等との連携のネットワークを重層的に構築し、抑止力・対処力を強化していくことが極めて重要です。今後も私自身が先頭に立ち、世界中を飛び回る覚悟です。

なお、各国との間で防衛装備・技術協力が拡大していますが、それらは、日本の装備品の高い技術力に対する世界からの期待の表れでもあります。この期待に応えることは、国際秩序の平和と安定につながるものであり、防衛装備移転を更に推進していくための制度面の施策にもスピード感をもつて取り組むことが重要です。

先般、自由民主党と日本維新の会との間で五類型の撤廃が合意されたという重みを踏まえ、防衛力の変革、そして防衛装備移転の拡大による防衛と経済の好循環を実現すべく、その必要性をしっかりと説明するとともに、関係省庁とともに検討を行っていく考えです。

加えて、人的基盤の強化についてです。

防衛力の中核である自衛官の人材確保

は、政府が一丸となって取り組むべき至上命題です。

防衛省として、「自衛官の処遇・勤務環境の改善及び新たな生涯設計の確立に関する基本方針」に基づき、手当の充実を始めとする自衛官の給与面の改善など、自衛官の処遇、生活・勤務環境の改善、新たな生涯設計の確立等の各種施策を講じており、今後も引き続き取り組んでまいります。

特に、自衛官俸給表については、自衛隊が創設されて以降、およそ70年間にわたって、抜本的な改定はなされてこなかったところですが、今般、これに取り組むこととしております。

こうした様々な取組を通じて、隊員とその御家族が国防という極めて崇高な任務に誇りと名誉をもつて専念できるようにすることが、防衛大臣としての私の使命です。

最後に、今この瞬間も、国内外の厳しい環境下で、24時間態勢で日本を守るために働いている自衛隊員がいます。

国民の皆様にも我が国を取り巻く安全保障環境に対する適切で健全な危機感を共有し、そして隊員の苦労や貢献も含めて防衛省・自衛隊の取組について御理解いただきたいと考えており、このため、私自ら先頭に立ち、迅速かつ分かりやすい情報発信に努めてまいりたいと考えております。

長年、我が国の防衛に関する様々な御活動に取り組んでこられた陸修偕行社会員の皆様におかれましては、なお一層の御支援と御協力を賜われれば幸いです。

結びに、陸修偕行社会員並びに御家族の皆様、益々の御健勝と御多幸を心より祈念し、私の御挨拶とさせていただきます。